

情報事業・広報事業担当者のための課題解決・実践研修0

受講後アンケート集計結果

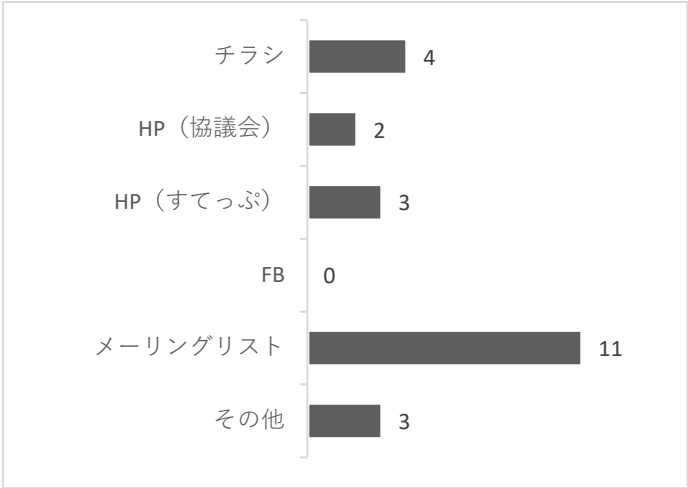
【開催日時】 令和4年（2022年）9月27日（火）午前10時～午後4時

【受講者数】 27人

【アンケート回答者数】 21人

1. 今回の研修をどこでお知りになりましたか

チラシ	4
ホームページ（全国女性会館協議会）	2
ホームページ（とよなか男女共同参画センター）	3
フェイスブックページ	0
全国女性会館協議会メーリングリスト	11
その他	3
合計	23



その他回答：

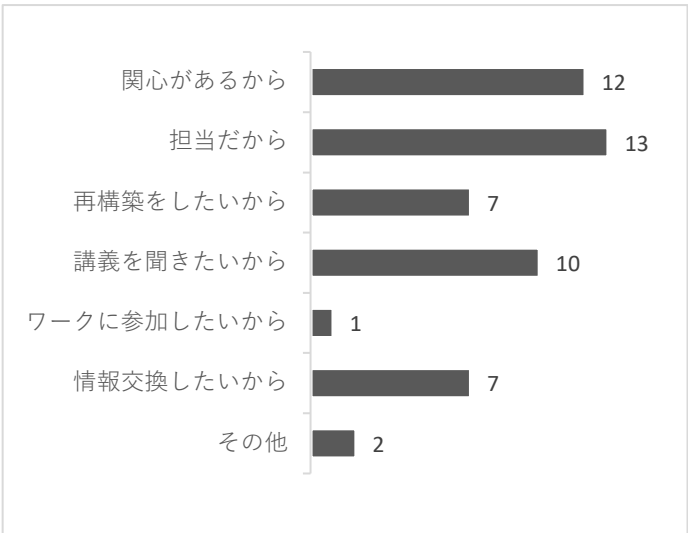
- ・職場の上司のすすめ
- ・上司から
- ・上長から

チラシ設置場所：

- ・女性センター

2. 今回の研修に参加された動機をお聞かせください。（複数回答可）

男女共同参画センターの広報事業に関心があるから	12
情報事業・広報事業の担当だから	13
情報事業・広報事業の再構築をしたいから	7
講義を聞きたいから	10
ワークショップに参加したいから	1
他のセンターや施設の方との情報交換がしたいから	7
その他	2
合計	52



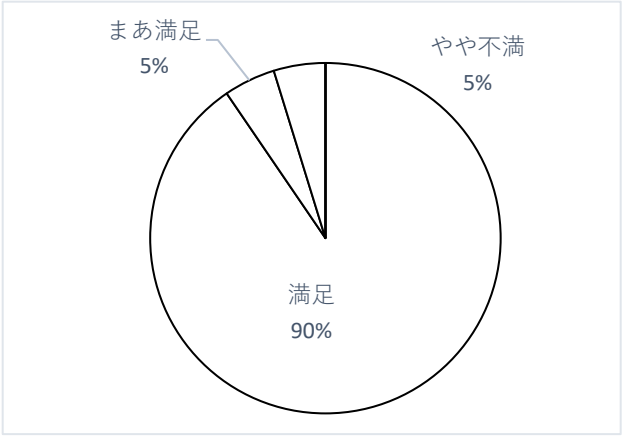
その他回答：

- ・情報誌のあり方についてヒントをいただきたかった。
- ・上司のすすめ

3. プログラム①「センターの広報のあり方とは」について

☆満足度を教えてください

満足	19
まあ満足	1
やや不満	1
不満	0
無記入	0
合計	21



【満足】

- ・今までは何をしてきたんだ。と思うほど、本当の広報のあり方、仕方を教わることができた。
- ・明日からすぐ取り入れられることを、知ることができた。
- ・男女センターの広報のあり方や今後の課題について考えることができました。チラシの作成ポイントや広報はイベント対象者ではなく決定権をもつ相手に焦点を当てる、使用するフレーズなど学びました。
- ・男女共同参画事業の意義と特徴、構造などが分かり、どのように広報にいかせばよいか理解できた。また、情報事業と広報事業との違い、他男女センターのデータによる広報媒体の活用なども勉強になった。年代別のメディアの平均利用時間や特徴も今後に活かせるのではないかと思った。チラシの作成方法はとても分かりやすく役に立ちそうなので今後とも活かしていきたい。
- ・男女共同参画推進とは、男性と女性の間にある不平等を解消することであるということを、講師自身の経験も交えて話してくださりセンターのあり方も踏まえた広報事業について学ぶことができて良かったです。
- ・広報とは何か、ということを改めて知る機会になりました。チラシの作り方については、すぐにでも実践したいと思います。
- ・広報の重要性について再認識することができた。また、具体的な広報のノウハウについて参考になる知識を得ることができた。
- ・男女共同参画センターの基本的なことを改めて認識する機会となりました。他団体の情報発信の方法や、それに対しての考え方などを伺え、自分のところの課題が明確になりました。
- ・男女センターの置かれている状況や広報の心がまえを知ることができ、大変参考になりました。ただ「伝える」のではなく、「伝わる」工夫を全力で行いたいと思います。また、若年層へのアプローチにつきましても、今後センター全体で考えて参りたいと思います。
- ・他のセンターでも紙媒体がまだ主として使用されており、SNSの活用にはどこも苦戦しており、共通の課題があることが分かりました。情報を受け取る年齢層に合わせた伝える手段と、「伝える」ではなく「伝わる」広報についてもっと学びたいと思いました。
- ・伝えると伝わるは違う、参加対象者と決定権者は違う、明朝体は使わない、4月に講座開催するのが良い、効果的な数字の表現方法など具体的なアドバイスを聞けて大変ためになりました。
- ・広報として日ごろ感じている悩みは、共通のものであることを認識できました。広報するための目的意識が大切であることを改めて認識できました。
- ・今まで広報担当はおらず、今回広報担当を立ち上げたため、ゼロから始める必要があり、他のセンターがどのようなことを、どのような方針でやっているのか、広報の基本を知りたかった。また、女性センターとしての役割や課題なども共有いただけたのがよかった。

【やや不満】

- ・うなずけるところも多くあったが、それはどうなの？と思うところもあった。後半の講義と比べると、内容がやや古い印象。

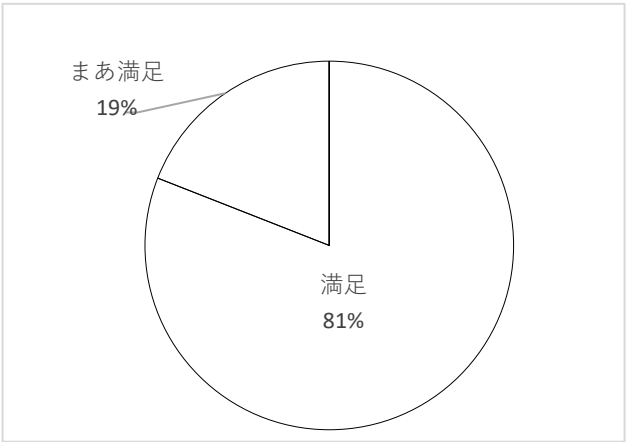
☆講義を受けて印象に残ったことを教えてください

- ・各SNSのターゲットの違い
- ・情報と広報の違い
- ・数字の見せ方
- ・数字の提示の仕方。印象がガラリと変わることを、知っているようで意識が行き届いていなかったと認識した。
- ・「人気の」「話題の」といったいわゆる“あおり”は、昔からよく使われますが、最近は逆効果になることも多いので注意が必要。数字の言いかえも。そういう行政の広報を見ると、市民を馬鹿にしているような印象にみえることがあります。特に若い人は敏感です。印象を聞いてみるといいと思います。例に挙げてくださっていたチラシも、デザイン的にはどうなのかと思う。それで良い事業もあるが、ターゲットによってはまったく響かない。そこへの言及があれば、聞きやすかったと思います。
- ・ペーパーレスの時代ではあるが、配架する場所があり、手に取る人がいるので、ちらしは必要だということ。
- ・チラシの作成ポイント
- ・「チラシを見るのは誰か」「決定権は誰が持っているのか」というお話にハッとしました。集客の悪い講座はそこが出来ていなかったように思えます。
- ・イベントに参加するかどうかは、パパ向けのイベントでも、子ども向けのイベントでも妻が決めている。つまり決定権は妻にあり決定権のある人に目の行くチラシを作ったり、配布すれば良いという考えに驚きと納得がいった。
- ・対象者と訴求者が異なることがあること
- ・誰かに伝えるために、半径5Mの人がわかるような専門用語ではなく、わかる言葉で伝える。
- ・広報の意図がしっかりと伝わる戦略が必要であることを改めて感じました。
- ・広報に万能なものはない。戦略を練って広く報せていく。どの世代にアプローチしていくのかを各センターはそれぞれ特性があるので、考えていく必要があると感じた。特に、課題となっている若者との接点を作る点で、資料により具体的な方法を示していたのが分かりやすかった。チラシの作成はとても参考になった。
- ・広報はセンター全体で行うもの
- ・広報は組織全体で取り組まなければならない、との点に深く同意しました。本研修内容を、どのように課の壁を超えて伝え、実践していけるのか。そこから取り組みたいと思います。
- ・女性センターの意義、課題

4. プログラム②「魅力的な情報誌・広報誌をつくる」について

☆満足度を教えてください

満足	17
まあ満足	4
やや不満	0
不満	0
無記入	0
合計	21



【満足】

- ・非常に参考になりました。
- ・魅力的な広報誌をどのようにして制作しているのか知ることができた。
- ・具体的な広報としての課題や、その解決のための取り組み等のプロセスが良く理解できました。
- ・実際の情報誌を作る現場の声を知ることができ、また実際に取り入れられそうな参考にしたいお話を沢山聞くことができたことも良かったです。
- ・京都、横浜の担当者のそれぞれの工夫や具体的なやり方を知ることが出来て、とても参考になりました。
- ・以前より、京都市さん、横浜市さんの広報誌につきまして、魅力的と感じておりましたので、お二方のお話を拝聴できる機会を得ましたことに感謝申し上げます。広報誌が完成するまで試行錯誤しながら取り組んでおられるとのこと、またいろいろなコツを伺い、今後の業務の励みにいたしたいと思いました。
- ・自分では考えつかないような内容を情報誌に取り込んでおり、いかに興味関心をキャッチするかの熱意を感じ、良い方向に感化されました。

- ・イラストの重要性やマジョリティへの問いかけなど基本的なことを徹底的にすることが大事だと思いました。またこのセンターも抱えている問題は一緒なんだと思いました。
- ・自分では考えつかないような内容を情報誌に取り込んでおり、いかに興味関心をキャッチするかの熱意を感じ、良い方向に感化されました。
- ・他のセンターの情報誌・広報誌の作成で気をつけていること、手に取ってもらうための内容、イラストなど工夫していることが具体的に知れてよかった。紙媒体も必要であることが理解できた。
- ・他センターではどのように広報誌を作成しているのか知れて、とてもよかった。ただ、事例の広報誌が立派すぎて、自センターで水平展開するのは難しいものがある。
- ・本センターの情報誌は、来年刊行より**100号**を迎えます。記念のタイミングだからこそ、より届けたい層に届く内容やデザインを検討する機会にできれば、と思いました。京都市男女共同参画センター檜田さんの講演部分のPPTについて、差し支えなければ共有いただけますと幸いです。（課内で共有できるとありがたいです。）

【まあ満足】

- ・広報誌は担当ではないが、各センターがどのように取り組まれているのかを知ることができた。
- ・京都の男女センターの資料がなかった。学んだ事を活かすために、資料があるとありがたいです。

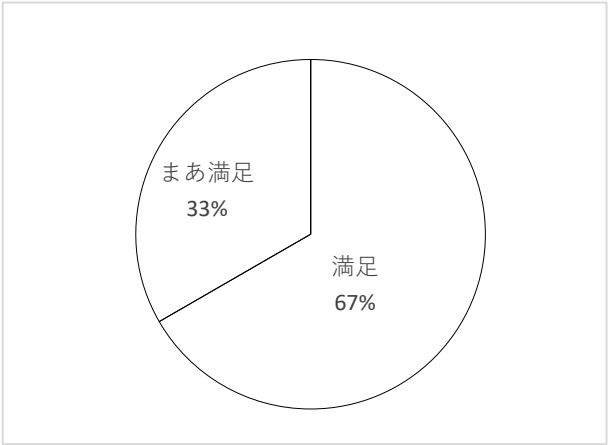
☆講義を受けて印象に残ったことを教えてください

- ・「カンケーない」と思っている人に知ってほしいことを届けるということ。
- ・京都の冊子づくりが素晴らしかったです。
- ・男女共同参画に関心がない人が手に取ってくれるような広報誌をめざして、デザイン等を一新したこと（京都市）。
- ・情報誌を手にとってくれなさそうな人のことを想像して、その人達に届けるためにアンテナをはる・学ぶ・いろんな人に会いに行くというお話にとても共感しました。
- ・若者世代や興味のない人にも手に取ってもらえる、デザインの重要性、男女共同参画の視点も含めて、デザイナーさんとのやりとり、予算などの具体的なことを話していただいたこと。行政っぽくないとの観点から作成していること。内容も興味を持ってもらえるように、リアルな声、何を届けるか、職員も調べながら作成していくことなど勉強になった。
- ・制作現場を覗かせていただいたような講義だった。制作スタッフが、まさに知恵を絞ってキャッチコピーやテーマを考案して、その道の達人や時の人の掘り起こしをしているんだな〜と納得。自分たちにもできることに取り組んでみたい、作ってみたい！と感じています。
- ・こちらが伝えたいことばかりでなく、「市民のリアルな声を届ける」ということを意識した情報誌にできれば、と強く思わされました。そのような情報誌にしていくには、大きな方向転換が必要になりますが、京都市男女共同参画センターさんのお話を伺い、情報誌を刷新するにあたり、所内でどのようなプロセスを取られたのかをお伺いしたかったです。
- ・情報誌サイズにトレンドがあるということ。
- ・情報誌の価値を高めること。
- ・しっかりコンセプトが検討されているところ。
- ・職員だけで作成しているところがあるということ。
- ・コネクションの作り方。
- ・イラストの重要性。
- ・広報誌を手にとってもらうには、インパクトが大切ということ。目を引くデザインも大切だし、内容としては著名人にインタビューするようなインパクトも必要だが、こちらから発信するばかりでなく、市民の声を取り入れることにより身近に感じてもらえる内容にすること。そして何より、読んでくれなさそうな人たちをイメージしながらその人たちにメッセージが届くように作ることが大切であるということ。
- ・市民のリアルな声を届けるということ。“読んでくれなさそうな人”のことを必死に想像する、ということ。肝に銘じたいと思います。
- ・市民の声を聴く場として機能させているところ。

5. プログラム③「SNSで広げるわたしたちの活動」について

☆満足度を教えてください

満足	14
まあ満足	7
やや不満	0
不満	0
無記入	0
合計	21



【満足】

- ・インスタでの効果的な発信について、具体的な例で学ぶことができた。
- ・若い方のSNSとの関わり方や意識が垣間見えました。直接のノウハウがどうというわけではありませんが、当方のSNS広報のあり方を根本から見直してみてもいいのかもしれないと感じました
- ・SNSでの団体活動を若い世代の視点で、どのように活用しているかを広報に役立つ視点で講義をしていてとても興味深く、若い世代の全ての情報が役に立つと感じた。能條さんが活動を始めるきっかけ、経緯も興味深かった。Instagramのメディア運営、何が反応があるのか、様々な角度からのアプローチ、ペルソナ対象の情報発信、本とSNSとのすみわけ、データの分析など大変勉強になった。
- ・ユース世代の講師のお話を聞くことが出来て、その世代でしか分からないSNSの運用方法などを知れて、とても参考になりました。
- ・ユース世代を取り込むために、必要な要素などのヒントが多くわかり、とても参考になりました。
- ・データに基づいた運営を行いながら、リアルタイムに発信できるInstagramの活用方法を知ることができて勉強になりました。
- ・男女共同参画センターに対する若い世代のかたの率直な意見を聞ける場でした。アドバイスをもとに、職員との意識の共有をはかっていきたいと思いました。
- ・インスタグラムは開設しているが、今後のテーマをどのように定めビジュアルとして出していくかはちょうど今後の検討課題のひとつであり、大変参考になった。

【まあ満足】

- ・実際の業務を超えた大きい内容だった。大きな視点で考えるきっかけをもらえた。
- ・若者向けのコンテンツをつくる時には、「保存」したくなるような投稿を作成するなど、参考になりました。
- ・デザイナーを雇うことは難しいように思う。ただ、ここにお金を出せると強いと思う。
- ・若年層に関心を持ってもらうための情報発信の方法について実践しておられる能條さんから直接お聞きでき、今後の参考にしたいです。

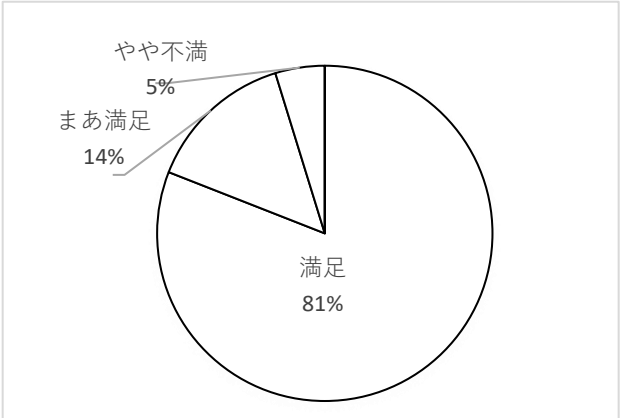
☆講義を受けて印象に残ったことを教えてください

- ・能條さんが生き活きと楽しそうで、質問にも率直で前向きな姿勢が好感がもて、人を惹きつけるということがどういうことなのか、少し分かった気がしました。
- ・能條さんの活動
- ・能條さんという若い人からの話を聞くことができ、センターの存在さえ知らない若者にどう伝えればよいか、当たり前の情報でも知らない人のために一から伝えるということ、そしてそれはきちんと届かないと意味がないということ。SNSで発信するということは一方的に発信するのではなく、相手のことを考えて情報を伝えなければならないということを学んだ。そしてそのためには学生に協力してもらって一緒に活動すれば良いという提案はできたらいいなと思った。
- ・ユース世代へのアプローチの仕方のお話がとても参考になりました。また、ユース世代から見た今の男女センターの印象のお話もとても参考になりました。
- ・効果的なSNSの活用法
- ・情報量に圧倒された。広告やデザインに予算を割かなくてはならない、割く価値があるのだということを理解した。

- ・インスタでビジュアルを自ら作っていること。文字数、ビジュアルに工夫していること。
- ・インスタ内で質問なども受け、双方向性を持っているところ。
- ・「フォローしている人が恥ずかしくないSNS」という点につきまして、ビジュアル面など身近に感じられるSNSになるよう運営していきたいと思いました。
- ・ユース世代の方にも運営に参加してもらうことが必要だと感じました。
- ・その地域のユース世代と一緒に広報していくことは、男女共同参画センターにとってSNSを有効に活用していくことに繋がる。
- ・SNSを若者世代に広めていくために、「若者のために何をしてくれますか」理由がないと他者に勧めてくれない。役立つ情報、勧めやすいという観点で、欲しい情報を発信する、若い世代も男女共同参画に興味を持っていて話したい人もいるということ、若者世代とのコラボ企画など印象的だった。そのような人にも関心を持ってもらえるようにどうすればよいのかを考えるきっかけとなった。炎上の話も気をつけるべきことなので知ることができてよかった。
- ・本センターでもInstagramの運営は、20代半ばの若手職員が担当しており、若い人の感覚で作成してもらっています（絵文字の使い方など）。一方で、市民団体と男女共同参画センターでは掲載できること、掲載までのプロセスが違い、若者の間でリーチ数を稼げるような投稿
- ・キャンペーンを真似できない部分も大きいなと思いました。

6. 研修全体に対する満足度を教えてください

満足	17
まあ満足	3
やや不満	1
不満	0
無記入	0
合計	21



【満足】

- ・4人の講師それぞれの講義によって、広報活動全体を多角的に学ぶことができた。
- ・目からうろこの情報がたくさんありました。広報の基礎からSNSの活用法まで幅広く学べました。また他のセンターの方々と交流ができ、どのセンターも同じような課題をもっているのだなと感じました。京都や横浜のセンターを参考に、ムーブでも冊子を作成していこうと思いました。研修に参加できて良かったです。
- ・男女共同参画センターの広報として、必要なことを体系的に学ぶことができました。
- ・全国各地域のセンターのかたとの交流の場でもあったので、ZOOMならではのと思いました。個人でも質問できる時間があるとより良かったかなと思いました。
- ・講義の内容もよかったし、グループワークで他のセンターのことも知れてよかった。
- ・グループワークで他センターの方々と意見交換ができたのも良かったです。
- ・日頃から、ただHPの運営やSNSでの発信など行っていましたが、3つの講義と参加されました皆さんとのグループワークから、「伝えるべきこと」「どのように伝えるのか」等、しっかり考え抜き、情報発信していきたいと思います。

【まあ満足】

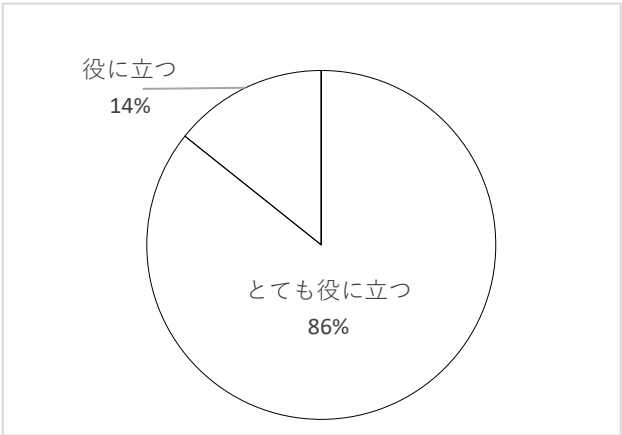
- ・濃厚な時間をありがとうございました。ワークショップの時間がもう少しあると、他センターの方との情報交換収集、交流ができて良いかなと思いました。

【やや不満】

- ・今回の研修では、グループワークの意義が感じられなかった。特に、講師への質問を「グループで1つに絞る」というのは、採用されなかった人は解決せずにフラストレーションがたまるし、発表者に選ばれた人も色々と気を使って自分の聞きたいことを聞けない。センターのそれぞれ違った事情はそれぞれなので、講師への質問と、グループワークしかできないことをやれるとよかったと思いました。

7. 今回の研修はこれからの事業に役立ちますか

とても役に立つ	18
役に立つ	3
役に立たない	0
無記入	0
合計	21



とても役に立つ理由：

- ・講師の方が実際の業務についてのお話を沢山聞かせて下さったので、とても参考になりました。
- ・チラシ作成やこれからのSNS運営に活かせることばかりでした。
- ・まさにこれからの広報を作成する時に使える情報ばかりだった。
- ・「伝える」ではなく「伝わる」広報をします。
- ・ツイッターの活用やマジョリティへの視点など広報事業に生かすことができます。
- ・広報誌を制作するうえでのポイント、すぐ実行できそうなことから長期的に取り組めそうなアイデアまで、多くの学びがあった。
- ・情報誌についてもSNSについても、そもそもの「あり方」を考えるヒントになりました。
- ・まずは自分たちのセンターとしてやっている広報事業について、改善点・良い点を全体で共有すること。若い世代のニーズにこたえられるセンターの資源の提案。
- ・何となく広報の仕事をしており、「この方法で良いものか」と疑問を持ちながら、業務を行っていましたが、広報や情報発信に特化した講座を受講でき、安心感を得ることができました。
- ・上記の講義が役に立ちそうだから。

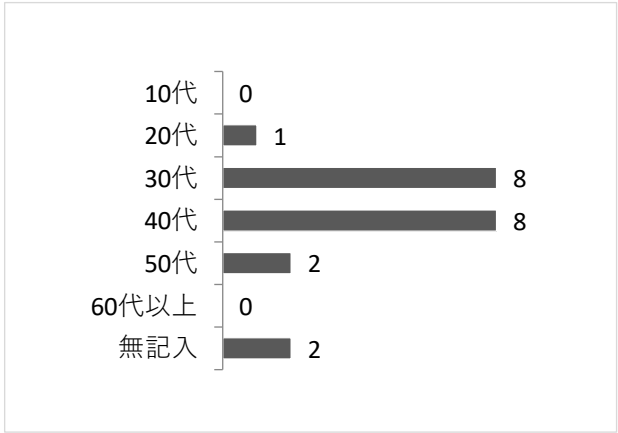
8. 今回の研修を通じて「やってみよう！」と思ったことを教えてください

- ・ただやるだけでなく、相手をイメージし、届かせることを意識する。数字の表現を工夫する。
- ・広報とは誰に向けて情報を伝えるのか、一番伝えたい人は誰なのかを考えながら作成することが大事という、一番当たり前のことが抜けていたことがわかった。チラシを渡すにしても誰に渡すのが適切かということのを頭にいれながら伝えたい相手を明確に考え、広報していきたいと思う。
- ・手に取りやすい広報誌づくり、ビジュアル・身近に感じられる情報発信。
- ・まずは、広報の企画の段階でしっかりと伝えたいことが伝わるように戦略を立てたいと思います。
- ・まずは相手の立場に立って、読んでみたい、この講座に行ってみたいと思える、親しみあるデザイン、内容の広報を作りたいです。SNSの運用についても、講座のお知らせだけでなく、見てくれる人にとって保存したくなるような情報（地域のジェンダー事情等）も発信していきたいと思います。
- ・多世代を巻き込み、センターを動かしていくこと。デザインの勉強。
- ・施設をもっと若い人に知ってもらうために、若者のリアルな声を聞き反映していこうと思いました。
- ・タイムリーに発信する。ターゲットがどんな層なのか、広報内容を合わせることを意識する。
- ・SNSでの効果的な広報方法を知ることができました。センターの発言できることが限られている中でどこまでできるか模索していこうと思いました。またリアルな声を聞く場が大事だと思いました。
- ・まずは「SNS」についてもっと勉強し、まずは使いこなせるようにします。
- ・まずは自分たちのセンターとしてやっている広報事業について、改善点・良い点を全体で共有すること。若い世代のニーズにこたえられるセンターの資源の提案。
- ・今回学んだことを活かし、自分自身が広報として何かを発信していく時（ツイッター等）に、目的意識をもって発信していくことを実践していきます。
- ・今まではSNSに載せて発信をしていたがそれだけではなく、そこから具体的な工夫が出来そうなので、若者世代へのアプローチの方法、対象者を考えての何の情報が必要なのかを考えて発信していきたい。また、若者世代とのコラボ企画なども考えてみるきっかけとなった。
- ・とりあえずすぐにできること、というのはありません。方向転換するためのヒントをたくさんいただきました。

<回答者属性>

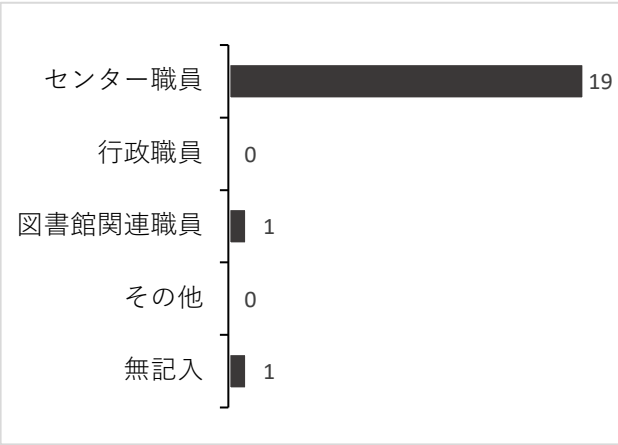
年齢

10代	0
20代	1
30代	8
40代	8
50代	2
60代以上	0
無記入	2
合計	21



所属

男女共同参画センター職員	19
行政職員	0
図書館関連職員	1
その他	0
無記入	1
合計	21



居住地（居住県）

大阪府	3
東京都	2
福岡県	2
岩手県	1
愛媛県	1
青森県	1
静岡県	2
福島県	1
千葉県	1
無記入	7
合計	21